



**KOURAKUEN
HOLDINGS**

株式会社 幸楽苑ホールディングス

2023年3月期 決算説明会

2023年5月18日(木)

目次

1. 連結決算ハイライト
2. 2023年3月期連結決算概要
3. 2024年3月期連結業績予想
4. 今後の経営計画

1. 連結決算ハイライト

連結決算ハイライト①

1. 2023年3月期は、新型コロナウイルス感染症の拡大と鎮静化を繰り返しながら徐々に行動制限が緩和されました。しかし、物価上昇や人手不足によって店舗運営コストが大幅に上昇し、厳しい経営環境が続きました
2. このような状況下で、新商品導入、コラボレーション企画、価格改定やグランドメニューの刷新等に取り組みました。同時にコスト削減にも注力し、収益力の向上に努めてまいりました



連結決算ハイライト②

3. しかしながら、当期は売上高25,461百万円、
営業利益△1,687百万円、経常利益△1,528百万円、
親会社株主に帰属する当期純利益△2,858百万円
という結果となりました
4. 2024年3月期は、人材確保による店舗運営の正常化
及びサービス面の強化、定番メニューへの絞り込みに
よる原点回帰と店舗運営の効率化、不採算店舗の撤退
を進めていく方針です
5. これらの施策を進め、2024年3月期は通期営業利益
黒字を達成できるよう取り組んでまいります

2. 2023年3月期連結決算概要

連結損益計算書

- 営業時間短縮等による売上回復遅延、店舗運営コスト上昇
⇒売上高254億円、営業利益△16億円、経常利益△15億円
- 減損損失計上、繰延税金資産の取崩し
⇒親会社株主に帰属する当期純利益△28億円

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	2023年3月期		2022年3月期		前期比 (%)
	金 額	売上高比	金 額	売上高比	
売上高	25,461	100.0%	25,023	100.0%	1.8%
売上原価	7,053	27.7%	7,048	28.2%	0.1%
売上総利益	18,408	72.3%	17,975	71.8%	2.4%
販売費一般管理費	20,096	78.9%	20,021	80.0%	0.3%
営業利益	△1,687	—	△2,045	—	—
経常利益	△1,528	—	1,452	5.8%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△2,858	—	374	1.5%	—

売上回復遅延によりコスト上昇の吸収に至りませんでした

連結貸借対照表

- 固定資産の減損、繰延税金資産の取り崩しにより固定資産が減少
- 長期借入金の減少等により固定負債が減少
- 当期純損失の計上により純資産が減少

(単位：百万円、百万円未満切捨)

資産の部				負債・純資産の部			
	2023年 3月末	2022年 3月末	増減額		2023年 3月末	2022年 3月末	増減額
流動資産	2,409	3,161	△752	流動負債	6,580	5,620	960
固定資産	8,387	10,981	△2,594	固定負債	3,350	4,915	△1,565
有形固定資産	6,387	7,583	△1,196	負債合計	9,931	10,536	△604
無形固定資産	140	180	△40	純資産	865	3,606	△2,741
投資その他の資産	1,859	3,218	△1,359	負債・純資産 合計	10,796	14,143	△3,346
資産合計	10,796	14,143	△3,346				

業績改善を進め自己資本の充実を図ってまいります

コスト削減の状況

- 固定費管理の徹底等によるコスト削減に取り組みました
- 人手不足により人件費関連コストが増加。また、光熱費、デリバリー関連の支払手数料が増加しました

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	2023年3月期	2022年3月期	削減額
	金 額	金 額	金額
人 件 費	9,236	9,175	61
経 費	10,860	10,845	15
賃 借 料	3,091	3,189	△98
支払手数料	1,566	1,263	303
減価償却費	1,133	1,189	△56
水道光熱費	1,963	1,572	391
販売促進費	834	1,182	△348
運 搬 費	660	716	△56

今後も更なるコスト削減により収益性向上に努めます

資金繰りと財務状況について

2023年3月期に実施したこと

- 当連結会計年度末において当期純損失を計上しており、金融機関に対して業績回復に向けた施策を説明しました
- 結果として2023年3月末に、総額40億円のコミットメントライン契約を更新することで、十分な運転資金を確保しております

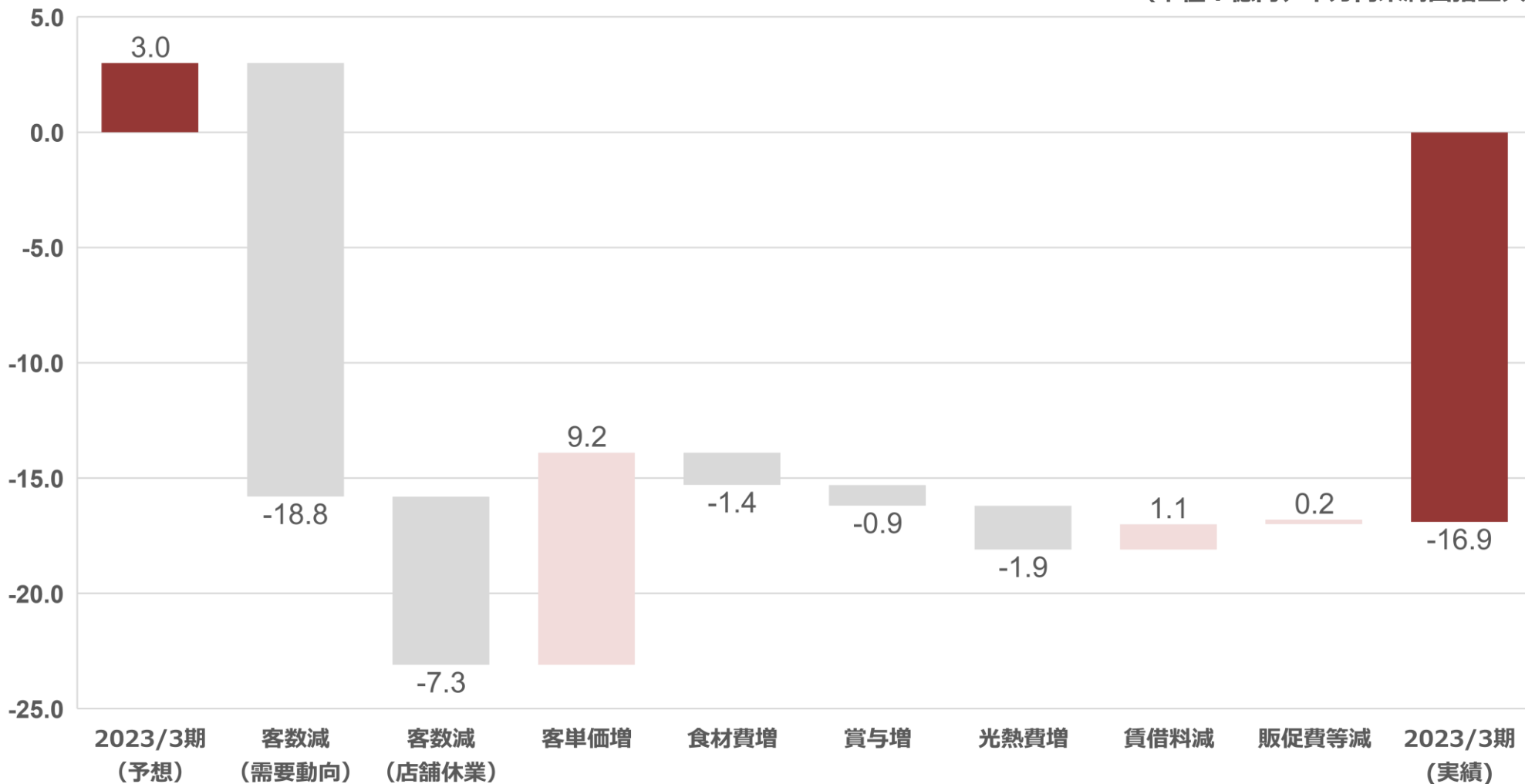
財務状況

- 財務基盤安定化を図っており、また、以下の資金調達余力を残しています
 - コミットメントライン総額40億円のうち17億円が未使用
 - 自己株式（簿価23億円）の売却による資金調達余力

十分な運転資金を確保しています

営業損益の分析（当初予想vs実績）

（単位：億円、千万円未満四捨五入）



特別損益の内容

- 特別損益の内訳は以下の通りです

(単位：百万円、百万円未満切捨)

科目	金額	内容
役員退職金戻入益	275	創業者への退職慰労金は本人の申し出により支給しないこととなりました
その他	71	固定資産の売却益他
特別利益合計	347	
減損損失	839	撤退店舗で約3億円、不採算店舗で約5億円の減損損失を計上しました
その他	82	固定資産の除却損他
特別損失合計	921	

(参考) 幸楽苑HDの個別業績の内容

- 店舗営業時間短縮や休業により食材売上が減少しました
- 固定資産の減損損失11億円と子会社の(株)幸楽苑の債権に対する貸倒引当金24億円を計上しました
- その結果、当期純損失は39億円となりました

(単位：百万円、百万円未満切捨)

個別業績	2023年3月期	2022年3月期	前期比
	金 額	金 額	金 額
売上高	8,749	9,366	△617
売上原価	6,621	6,607	14
売上総利益	2,127	2,759	△632
販売費一般管理費	2,435	2,695	△260
営業利益	△307	63	△370
経常利益	△463	64	△527
当期純利益	△3,908	△613	△3,295

継続企業の前提に関する重要事象

- 継続的な営業損失の計上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況が存在します

(単位：百万円、百万円未満切捨)

連結業績	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
営業利益	△1,729	△2,045	△1,687

- このような状況に対して以下の取り組みを進めています
 - (1)販売促進費等の削減や不採算店舗の退店等の営業損失の解消のための施策
 - (2)金融機関からの運転資金の確保に向けた協議
- その結果、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しました
- 資金繰り改善に向けたバックアッププランも検討中です

代表取締役の異動

- 株主総会をもって、代表取締役社長 新井田昇は任期満了により退任し、創業者である新井田傳が代表取締役会長兼社長として復歸いたします
- 現社長は、コロナ禍により外食産業が停滞する中、幸楽苑の新しい商品・サービスや新業態の開発を促進し、事業の成長とそれを支える経営基盤の見直しを図ってまいりました
- しかし、原材料費、光熱費、物流費の上昇、人材不足といった厳しい経営環境は続いており、当社の成長のためには、創業者が復歸することが最善と判断いたしました

配当について

- 2023年3月期の通期配当については、引き続き厳しい経営環境による減収状況を鑑み、無配とさせていただきます

	中間	期末	年間
2020年3月期実績	10円	0円	10円
2021年3月期実績	0円	0円	0円
2022年3月期実績	0円	0円	0円
2023年3月期実績	0円	0円	0円

配当できるよう経営努力を継続します

3. 2024年3月期の業績予想

今後の見通し

前提

- 新型コロナウイルス感染症による行動規制がなくなること、ファミリー層やシニア層の外食機会の増加が見込まれます
- 一方で世界的な物価高とそれに伴う店舗運営コストの上昇により、引き続き厳しい経営環境が続くと見込まれます

見通し

- 売上は平均月商21.7億円で推移する見込みです
※2023年3月期は平均月商21.2億円
- コロナ禍で離れた人材の採用、発掘、育成に注力し、店舗運営の正常化及びサービス面の強化に取り組みます
- 定番メニューへの絞り込みによる原点回帰を推し進め、店舗運営の効率化及び生産性向上を実施します
- 利益確保が困難な不採算店舗は撤退を進める方針です

2024年3月期の数値目標と会社方針

- 2024年3月期は売上高260億円、営業利益2億円、経常利益1.2億円、当期純利益0.2億円を見込んでいます

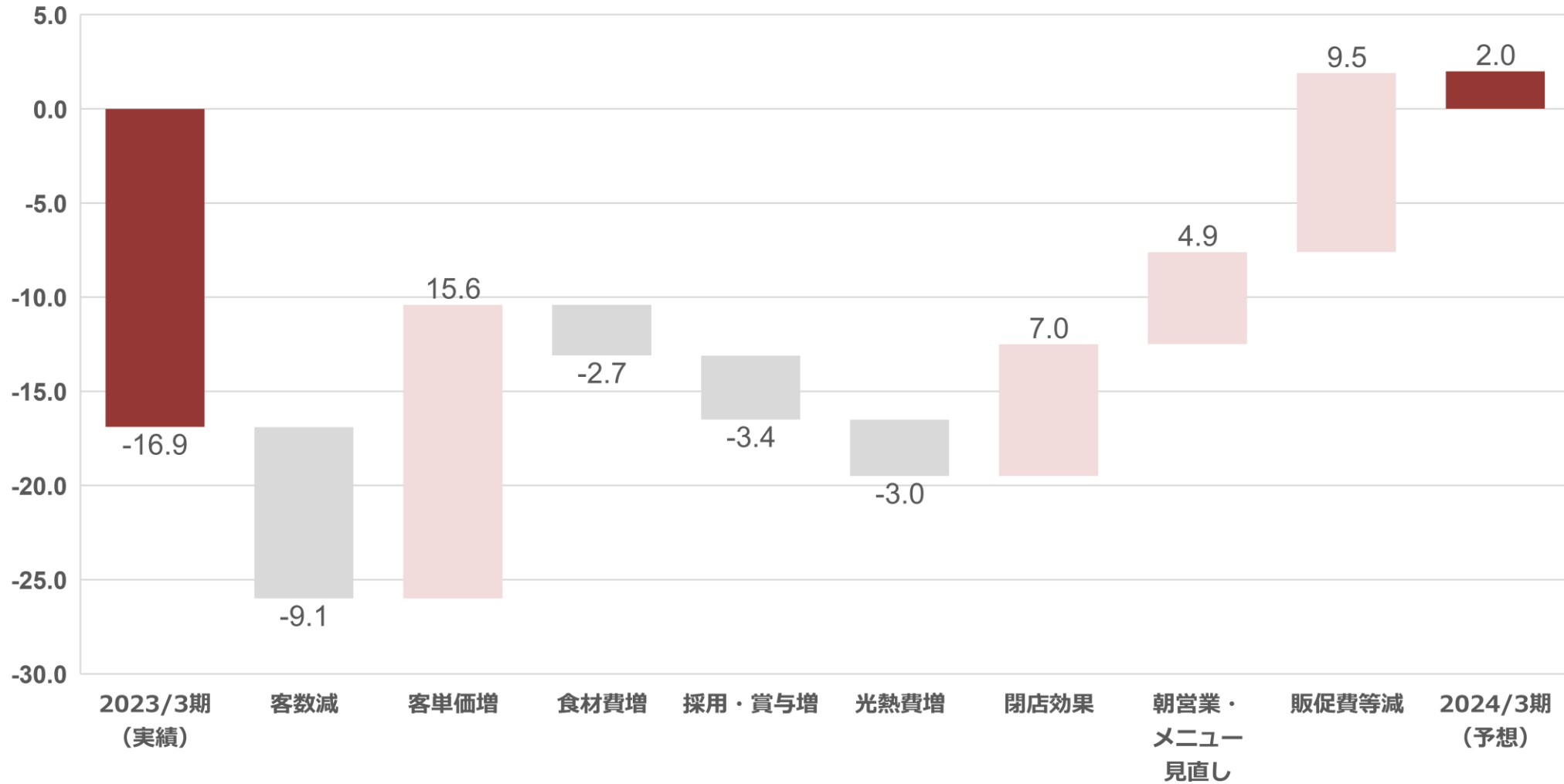
(単位：百万円、百万円未満切捨)

	上 期		下 期		通 期	
	見通し	前年 同期差	見通し	前年 同期差	見通し	前年 同期差
売上高	13,300	626	12,700	△87	26,000	539
営業利益	△50	638	250	1,249	200	1,887
経常利益	△90	333	210	1,315	120	1,648
親会社株主に帰属する 当期純利益	△150	921	170	1,957	20	2,878

営業利益黒字化を目標に取り組めます

2024年3月期の営業利益目標

(単位：億円、千万円未満四捨五入)



4. 今後の経営計画

今後の経営方針

◆ 創業者精神の再注入を行う

1. 外食の原点である魅力のある商品作りとメニューの絞り込み
2. 全店舗のQSCの立て直し
特に、品質・品温管理の徹底
3. 安心安全な食事環境の提供

2024年3月期の経営計画

◆ 原点回帰により、業績のV字回復を目指します

人手不足の解消による営業時間の正常化

メニューの絞り込みによる店舗運営の効率化

メニュー改訂とメニューミックスによる客単価の増加

販売促進費の大幅な削減と固定費管理の徹底

不採算店舗の撤退・FC化の推進

2024年3月期の売上回復策

実行内容	具体的な取り組み
メニュー・単価の見直し	■ メニュー改訂と新商品の投入 ■ セットメニュー提案による客単価の上昇 ■ タブレットの改訂
店舗オペレーション強化	■ 店長会議や店舗巡回による「調理」「接客」「清掃」に関する教育とマニュアルの徹底
営業時間の正常化	■ 人手不足の解消に向けて、元店長へ復職の促進 ■ 賞与支給による雇用維持



原点に立ち返り収益性を追求してまいります

2024年3月期のコスト削減策

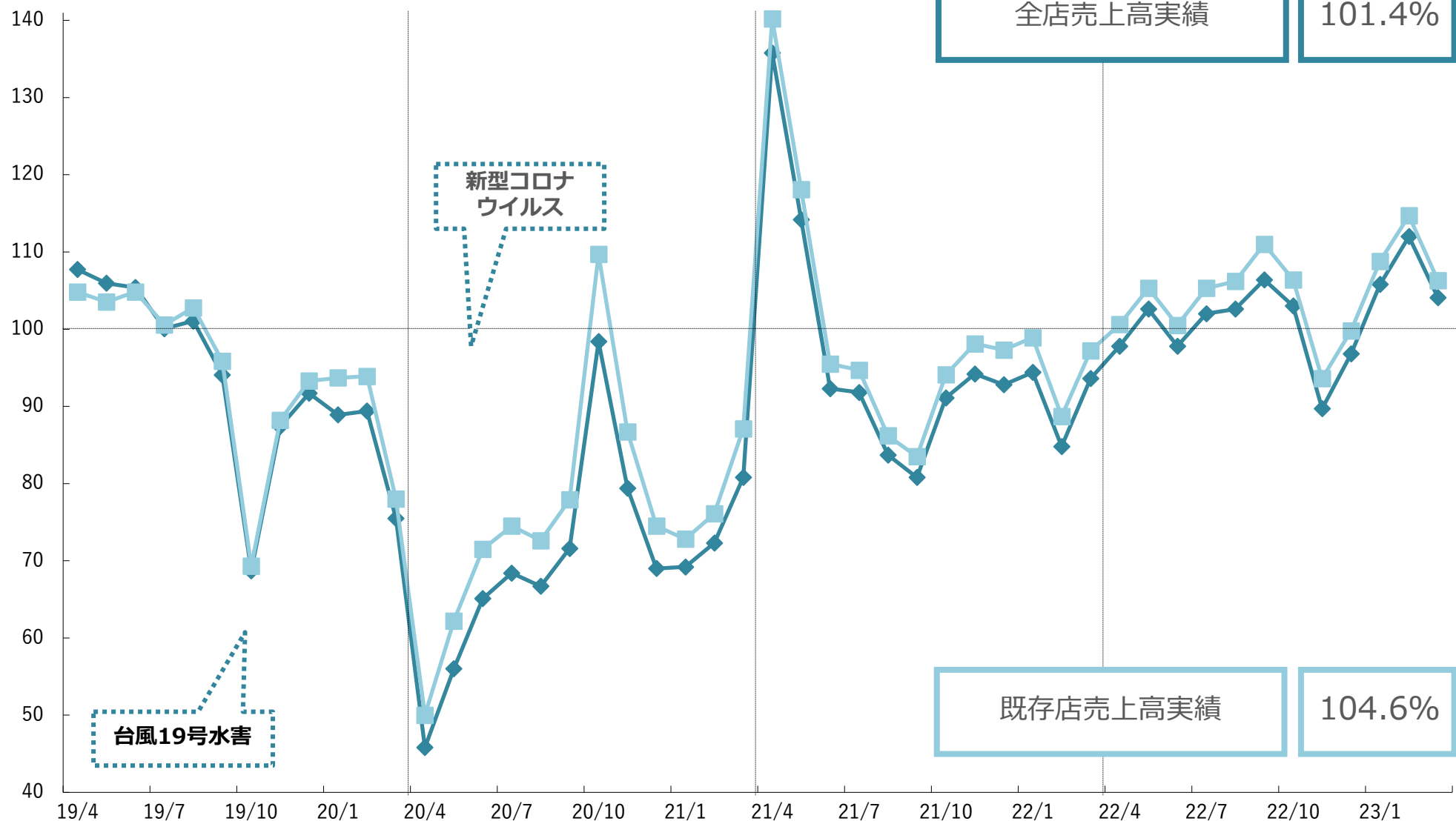
実行内容	具体的な取り組み
食材費	■ 購買活動の見直し、製造工程の見直し
経費	■ 共同配送への移行による物流費削減 ■ テレビCMの廃止、販促費の費用対効果の検証
店舗設備	■ 新規出店は基本的に行わない ■ 不採算店舗の閉鎖やFC化
人件費	■ メニュー絞り込みによる工数削減 ■ 朝営業の見直し

抜本的な改革により営業利益黒字化を目指します

5. 参考資料

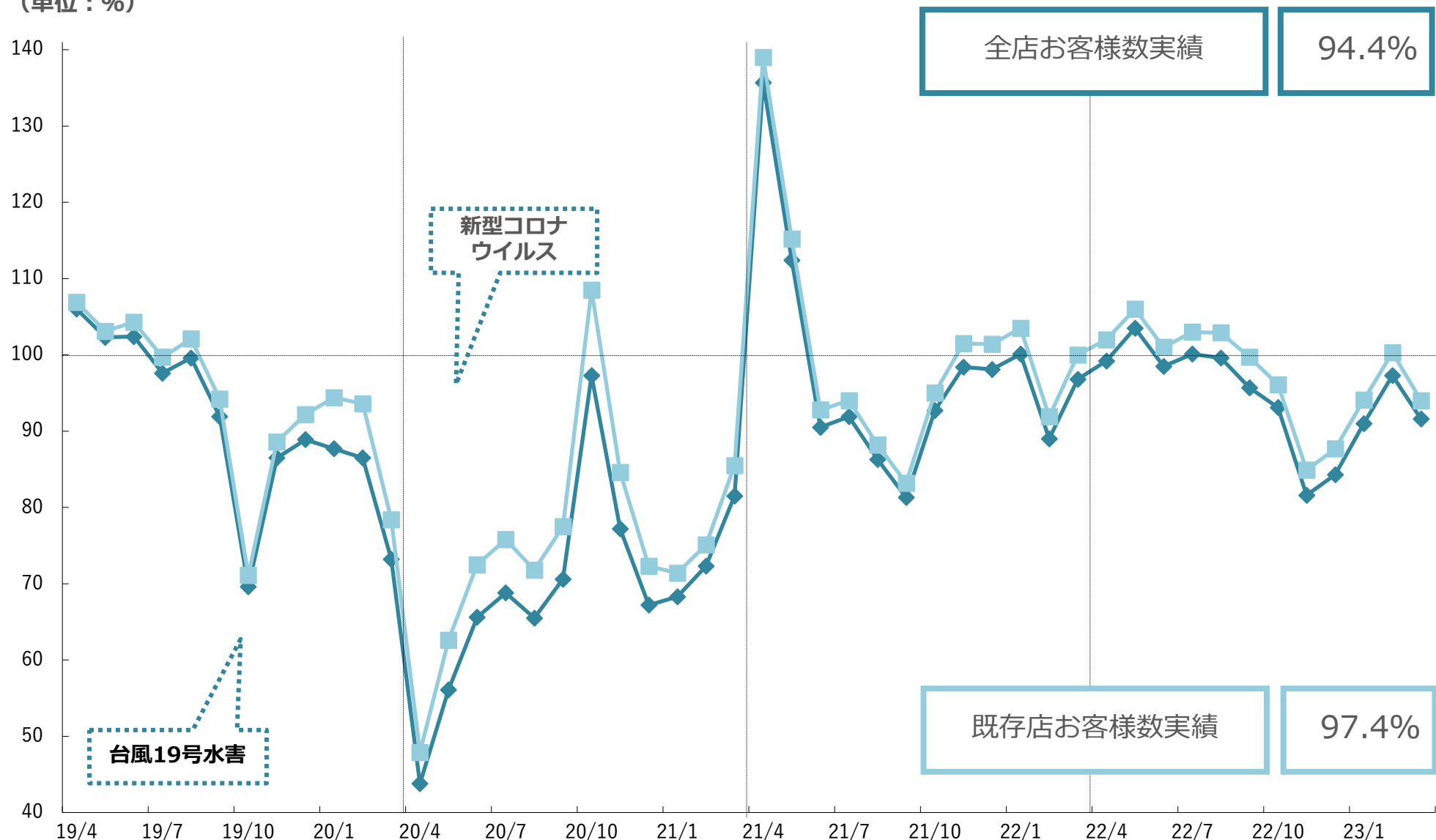
直営店月次売上高推移（前期比）

（単位：％）



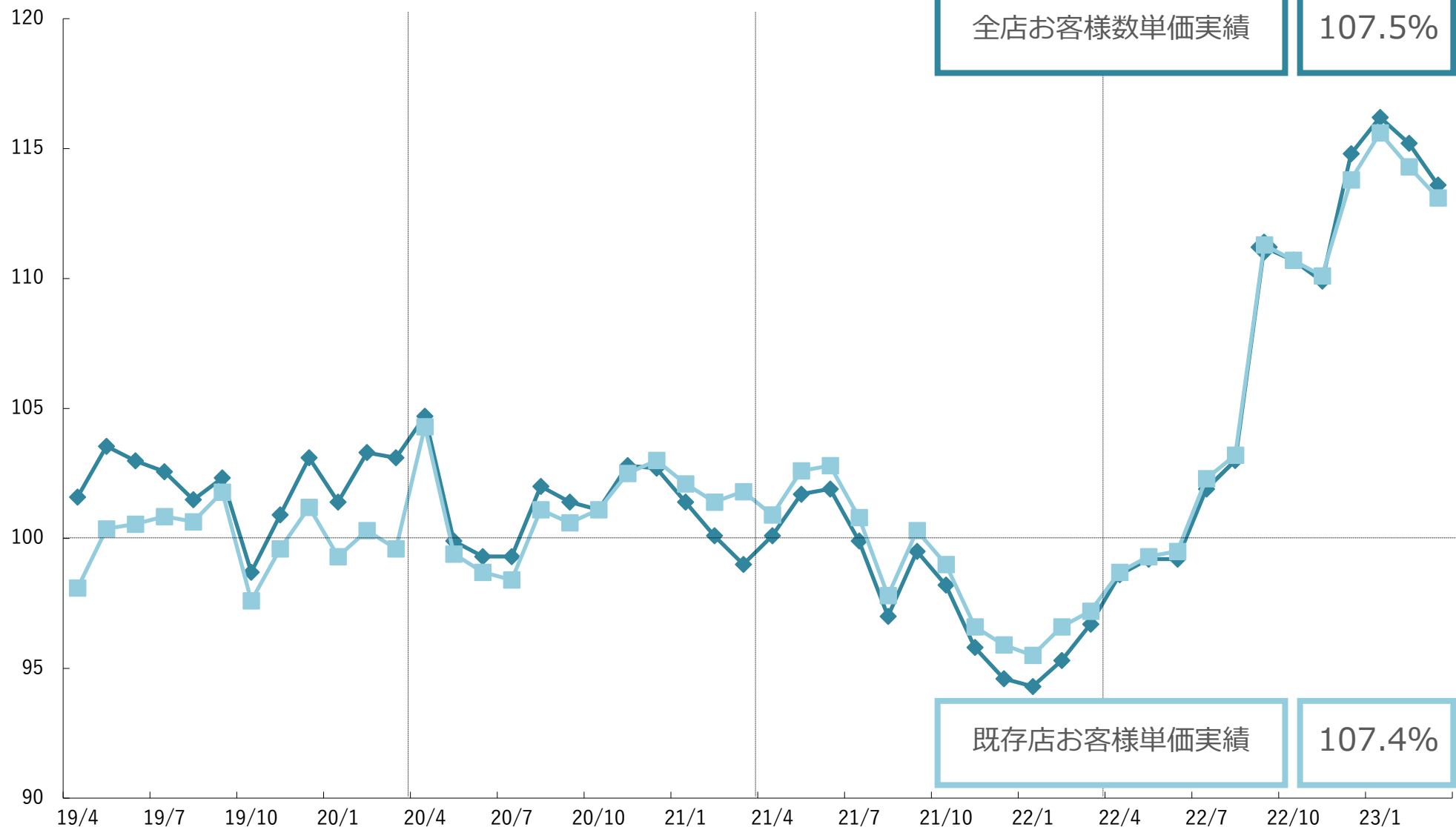
直営店月次お客様数推移（前期比）

（単位：％）



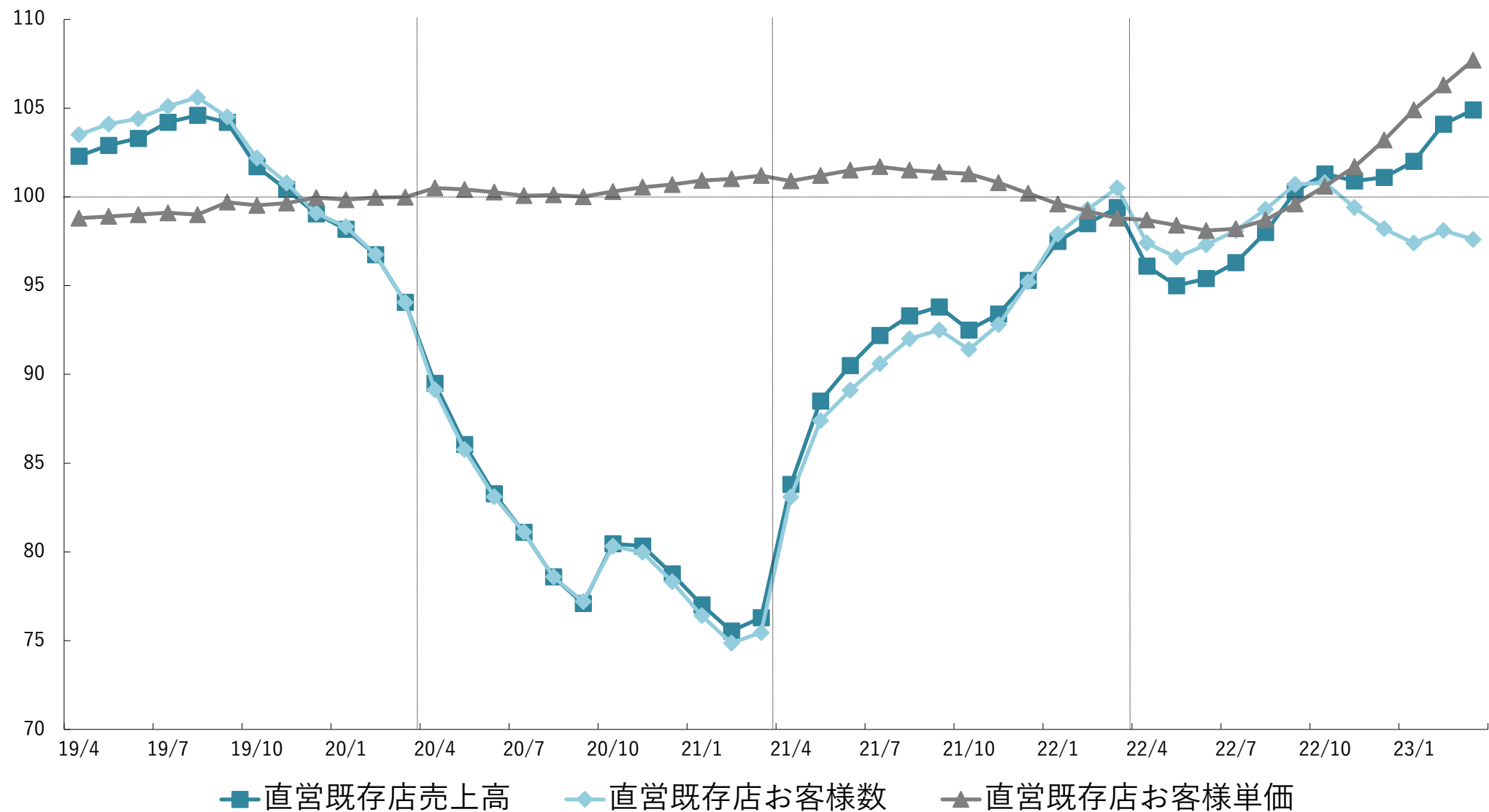
直営店月次お客様単価推移（前期比）

（単位：％）



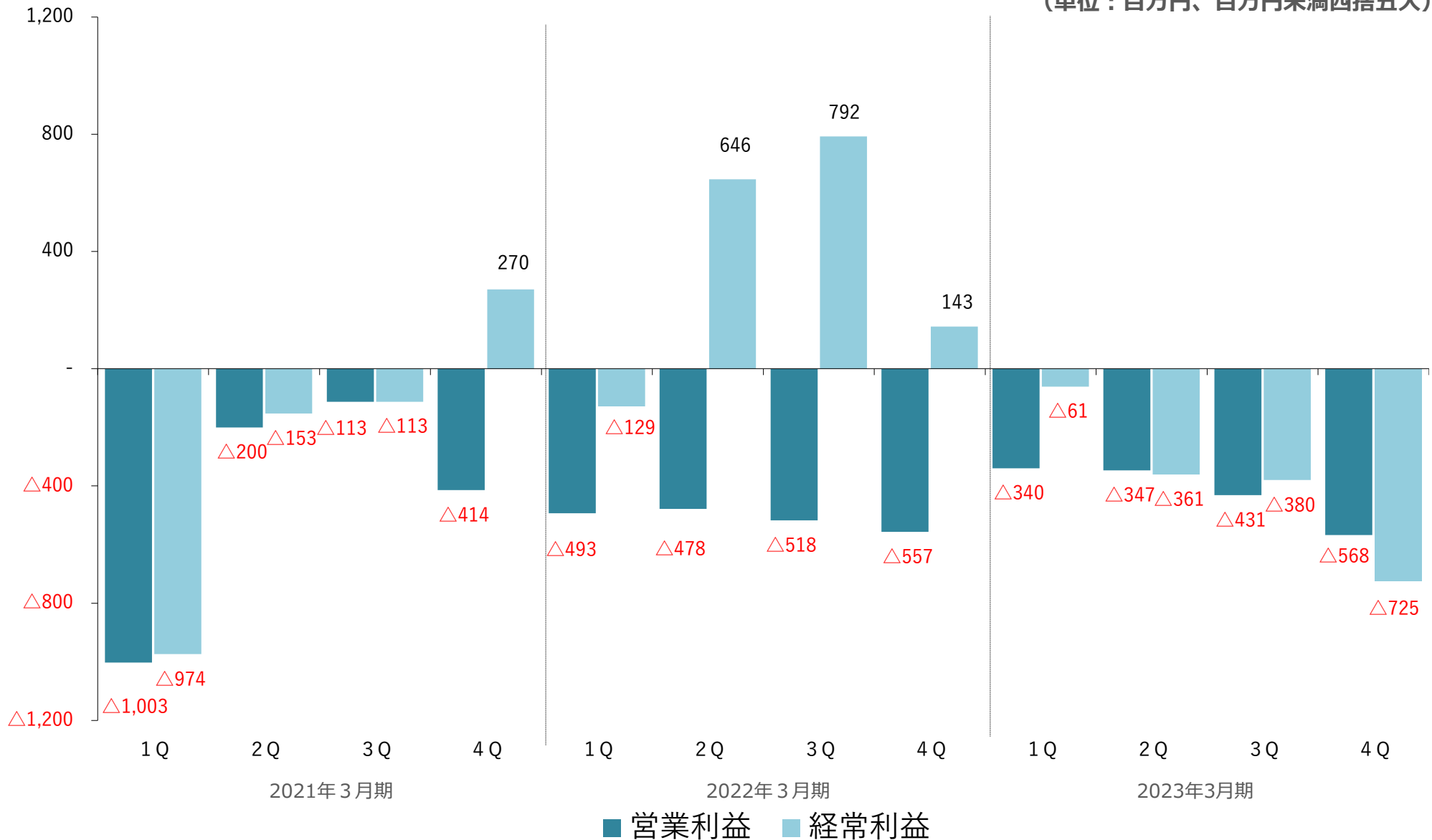
直営既存店月次推移（前期比・12ヶ月移動平均）

（単位：％）



四半期業績推移 (直近 2 期間)

(単位：百万円、百万円未満四捨五入)



営業店の推移

店舗のタイプ	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末
幸楽苑（国内）	427	411	393	383
いきなりステーキ	16	4	-	-
焼肉ライク	10	10	12	12
からやま	7	7	7	7
赤から	5	5	5	5
幸楽苑の家系らーめん トラック野郎 since2021	-	-	2	2
餃子の味よし	-	-	1	4
餃子食堂	-	-	2	-
VANSAN	-	-	1	1
幸楽苑（直営店）	465	437	423	414
幸楽苑FC（国内）	12	12	12	12
幸楽苑FC（海外）	5	5	5	5
幸楽苑FC 計	17	17	17	17
グループ合計	482	454	440	431

当社の直営店舗出店状況

《国内都道府県別店舗数》2023年3月末現在（2022年3月末比増減）

青森県	9店舗	-	新潟県	16店舗	△1
岩手県	9店舗	-	山梨県	7店舗	△1
宮城県	44店舗	-	長野県	7店舗	△1
秋田県	14店舗	△1	静岡県	12店舗	-
山形県	14店舗	-	愛知県	3店舗	-
福島県	47店舗	△1	大阪府	2店舗	-
茨城県	39店舗	-	兵庫県	1店舗	-
栃木県	22店舗	-			
群馬県	14店舗	-			
埼玉県	40店舗	-			
千葉県	47店舗	△2			
東京都	29店舗	-			
神奈川県	38店舗	△2			

国内：20都府県 414店舗

